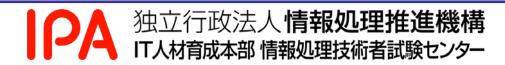
情報処理技術者試験

<u>試験で使用する</u> <u>情報技術に関する用語・プログラム言語など</u>

Ver 2.0

		技術に																						
2.	記号	図な	ぎ.																		 			 . 1
3.	プロ	グラム	言語																		 			 . 1
4.	デー	タベー	ス言	語																	 			 . 1
5.	マー	ク付け	言語	(マ・	ーク	ア	ッ・	プ言	語	i)											 			 . 1
6.	表計	算ソフ	トな	どの	ソフ	۲	ウ:	ェラ	7/	゚ヅ	ケ	— <u>\$</u>	ブ							٠.	 	٠.		 . 2
別紀	紙 1	アセン	ノブラ	言語	の仕	L様	ŧ														 			 . 3
別網	紙 2	プログ	ブラム	言語	Per	۱ (の月	例	•	解	兑.										 			 11
別紀	紙 3	表計算	シン	トの	機쉵	Ė.	用	語	(1)	T /	パス	゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙	—	۲	試	験	用).			 			 18
別約	紙 4	表計算	シンフ	トの	機負	늗.	用	語	(麦	基本	情	報:	技術	桁	者	式	験.	用)		 			 22

平成 23 年 7 月 11 日



■ 改訂履歴

【Ver 2.0】 平成 23 年 7 月 11 日

A · · · ·	1 100 == 1 1 10 11 11
ページ	変更点
18~27	「表計算ソフトの機能・用語」の改訂

【Ver 1.0】 平成 20 年 10 月 27 日 初版

本冊子に記載されている会社名又は製品名は、それぞれ各社の商標又は登録商標です。なお、本冊子では、TM 及び ® を明記していません。

1. 情報技術に関する用語

試験で使用する情報技術に関する用語は、日本工業規格(JIS)に制定されているものについては、その規定に従う。

2. 記号・図など

試験で使用する代表的な記号・図などは、次の仕様に従う。次以外については、問題文中で定義する。

情報処理用流れ図など : JIS X 0121 決定表 : JIS X 0125 計算機システム構成の図記号 : JIS X 0127 プログラム構成要素及びその表記法 : JIS X 0128

3. プログラム言語

- ① 基本情報技術者試験において、ソフトウェア開発分野に関する試験問題に出題するプログラム言語は、C、COBOL、Java、アセンブラ言語(CASLII)の 4 言語とする(4 言語のほかに、表計算ソフトによる試験問題を出題する)。
- ② 情報セキュリティスペシャリスト試験において、セキュアプログラミングに関する試験問題に 出題するプログラム言語は、C++、Java、Perl の 3 言語のいずれかとする。
- ③ 仕様などは、次による。

 $\begin{array}{ll} C & : JIS X 3010 \\ COBOL & : JIS X 3002 \end{array}$

Java : The Java Language Specification, Third Edition (JLS 3.0) (1)

(URL http://java.sun.com/docs/books/jls/index.html)

アセンブラ言語:「別紙1 アセンブラ言語の仕様」(3ページ)による。

C++ : JIS X 3014

Perl : 「**別紙 2** プログラム言語 Perl の用例・解説」(11 ページ) による。

- $\mathbf{\dot{z}}$ (1) なお、JLS 3.0 で追加された機能については、主に次の機能を問題中で使用する。ただし、これらの 3 機能に限定するものではない。
 - · Generics (総称)
 - ・拡張された for 文
 - ·enum (列挙) 型

また,メタデータは範囲外とする。

4. データベース言語

試験で使用するデータベース言語は、次の仕様に従う。

SQL : JIS X 3005 規格群

5. マーク付け言語(マークアップ言語)

試験で使用するマーク付け言語は、次の仕様に従う。

HTML : JIS X 4156 XML : JIS X 4159

6. 表計算ソフトなどのソフトウェアパッケージ

表計算ソフト:「別紙3 表計算ソフトの機能・用語(IT パスポート試験用)」(18ページ), 及び「別紙4 表計算ソフトの機能・用語(基本情報技術者試験用)」(22ページ)による。表計算ソフトの機能・用語(基本情報技術者試験用)は, 表計算ソフトの機能・用語(IT パスポート試験用)の内容を包含している。 ここに規定されていない機能・用語などについては、問題文中で定義する。 表計算ソフト以外のソフトウェアパッケージの機能・用語などは、問題文中で定義する。

<JIS の参照(日本工業標準調査会ホームページ)>

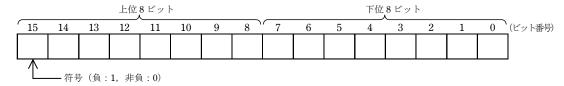
URL http://www.jisc.go.jp/

別紙1 アセンブラ言語の仕様

1. システム COMET II の仕様

1.1 ハードウェアの仕様

(1) 1 語は 16 ビットで、そのビット構成は、次のとおりである。



- (2) 主記憶の容量は 65536 語で、そのアドレスは $0 \sim 65535$ 番地である。
- (3) 数値は、16 ビットの 2 進数で表現する。負数は、2 の補数で表現する。
- (4) 制御方式は逐次制御で、命令語は1語長又は2語長である。
- (5) レジスタとして, GR (16 ビット), SP (16 ビット), PR (16 ビット), FR (3 ビット) の 4 種類がある。

GR (汎用レジスタ, General Register) は、 $GR0 \sim GR7$ の 8 個があり、算術、論理、比較、シフトなどの演算に用いる。このうち、 $GR1 \sim GR7$ のレジスタは、指標レジスタ (index register) としてアドレスの修飾にも用いる。

SP (スタックポインタ, Stack Pointer) は,スタックの最上段のアドレスを保持している。

PR (プログラムレジスタ, Program Register) は、次に実行すべき命令語の先頭アドレスを保持している。

FR (フラグレジスタ, Flag Register) は、OF (Overflow Flag), SF (Sign Flag), ZF (Zero Flag) と呼ぶ 3 個のビットからなり、演算命令などの実行によって次の値が設定される。これらの値は、条件付き分岐命令で参照される。

- OF算術演算命令の場合は、演算結果が-32768 ~ 32767 に収まらなくなったとき 1 になり、それ以外のとき 0 になる。論理演算命令の場合は、演算結果が 0 ~ 65535 に収まらなくなったとき 1 になり、それ以外のとき 0 になる。SF演算結果の符号が負(ビット番号 15 が 1) のとき 1、それ以外のとき 0 になる。ZF演算結果が零(全部のビットが 0) のとき 1、それ以外のとき 0 になる。
- (6) 論理加算又は論理減算は、被演算データを符号のない数値とみなして、加算又は減算する。

1.2 命令

命令の形式及びその機能を示す。ここで、一つの命令コードに対し 2 種類のオペランドがある場合、上段はレジスタ間の命令、下段はレジスタと主記憶間の命令を表す。

	書き方				
命 令	命 令 オペランド	命令	の説	明	FRの設定

(1) ロード,ストア,ロードアドレス命令

ロード	LD	r1,r2	r1 ← (r2)	O*1	
LoaD	טם	r,adr[,x]	r ← (実効アドレス)		
ストア STore	ST	r,adr[,x]	実効アドレス ← (r)		
ロードアドレス Load ADdress	LAD	r,adr[,x]	r ← 実効アドレス		

(2) 算術, 論理演算命令

(4) 辨的,빼狂风辨的的									
算術加算	ADDA	r1,r2	r1 ← (r1) + (r2)						
ADD Arithmetic	ADDA	r,adr [,x]	r ← (r) + (実効アドレス)						
論理加算	ADDL	r1,r2	$r1 \leftarrow (r1) +_{L} (r2)$						
ADD Logical	ADDL	r,adr [,x]	$r \leftarrow (r) +_{L} (実効アドレス)$						
算術減算	SUBA	r1,r2	r1 ← (r1) − (r2)						
SUBtract Arithmetic	SUDA	r,adr [,x]	r ← (r) – (実効アドレス)	i					
論理減算	SUBL	r1,r2	$r1,r2$ $r1 \leftarrow (r1){L} (r2)$						
SUBtract Logical	SUBL	r,adr[,x]	$r \leftarrow (r)L (実効アドレス)$						
論理積	AND	r1,r2	r1 ← (r1) AND (r2)						
AND	AND	r,adr[,x]	$r \leftarrow (r) AND (実効アドレス)$						
論理和	OR	r1,r2	r1 ← (r1) OR (r2)	O.4					
OR	OR	r,adr[,x]	r ← (r) OR (実効アドレス)	O*1					
排他的論理和	VOD	r1,r2	r1 ← (r1) XOR (r2)	1					
eXclusive OR	XOR	r,adr [,x]	r ← (r) XOR (実効アドレス)	1					

(3) 比較演算命令

算術比較	CPA	r1,r2	(r1) と (r2) , 又は (r レス) の算術比較又は論理 較結果によって, FR に次の			
ComPare Arithmetic	CFA	r,adr[,x]	比較結果 F SF		の値 ZF	
	CPL	r1,r2	(r1)>(r2) (r)>(実効アドレス)	0	0	O*1
論理比較 ComPare Logical			(r1)=(r2) (r)=(実効アドレス)	0	1	
J		r,adr[,x]	(r1)<(r2) (r)<(実効アドレス)	1	0	

(4) シフト演算命令

(五) ~ / 1 放升 11 1				
算術左シフト Shift Left Arithmetic	SLA	r,adr[,x]	符号を除き(r)を実効アドレスで指定したビット数だけ左又は右にシフトする。	
算術右シフト Shift Right Arithmetic	SRA	r,adr[,x]	シフトの結果,空いたビット位置には, 左シフトのときは 0,右シフトのときは符 号と同じものが入る。	O*2
論理左シフト Shift Left Logical	SLL	r,adr[,x]	符号を含み(r)を実効アドレスで指定したビット数だけ左又は右にシフトする。	
論理右シフト Shift Right Logical	SRL	r,adr[,x]	シフトの結果,空いたビット位置には 0 が入る。	

(5) 分岐命令

正分岐 Jump on PLus	JPL	adr [,x]			て, 実効フ きは, 次0			
負分岐 Jump on MInus	JMI	adr [,x]	命令		るときの I SF			
非零分岐 Jump on Non Zero	JNZ	adr [,x]	JPL	OI	0	0		
零分岐 Jump on ZEro	JZE	adr [,x]	JMI		1	0		_
オーバフロー分岐 Jump on OVerflow	JOV	adr [,x]	JZE JOV	1		1		
無条件分岐 unconditional JUMP	JUMP	adr [,x]	無条件					

(6) スタック操作命令

プッシュ PUSH	PUSH	adr [,x]	$SP \leftarrow (SP)L 1,$ $(SP) \leftarrow 実効アドレス$	_
ポップ POP	POP	r	$r \leftarrow ((SP)),$ $SP \leftarrow (SP) +_L 1$	

(7) コール, リターン命令

コール CALL subroutine	CALL adr [,x]	$SP \leftarrow (SP)L 1,$ $(SP) \leftarrow (PR),$ $PR \leftarrow 実効アドレス$	_
リターン	RET	$PR \leftarrow ((SP)),$	
RETurn from subroutine	KE I	$SP \leftarrow (SP) +_{L} 1$	

(8) その他

スーパバイザコール SuperVisor Call	SVC adr [,x]	実効アドレスを引数として割出しを行う。実行後のGRとFRは不定となる。	_
ノーオペレーション No OPeration	NOP	何もしない。	

(注) r, r1, r2 いずれも GR を示す。指定できる GR は GRO \sim GR7 adr アドレスを示す。指定できる値の範囲は $0\sim65535$

x 指標レジスタとして用いる GR を示す。指定できる GR は $GR1 \sim GR7$

[] 内の指定は省略できることを示す。

() 内のレジスタ又はアドレスに格納されている内容を示す。

実効アドレス adr と x の内容との論理加算値又はその値が示す番地

← 演算結果を、左辺のレジスタ又はアドレスに格納することを示す。

+L, -L 論理加算, 論理減算を示す。 FR の設定 : 設定されることを示す。

 \bigcirc *1:設定されることを示す。ただし、**OF**には \bigcirc が設定される。

○*2:設定されることを示す。ただし、OF にはレジスタから最後に送り

出されたビットの値が設定される。 : 実行前の値が保持されることを示す。

1.3 文字の符号表

(1) JIS X 0201 ラテン文字・片仮名用 8 ビット符号で規定する文字の符号表を使用する。

(2) 右に符号表の一部を示す。1 文字は 8 ビットからなり、上位 4 ビットを列で、下位 4 ビットを行で示す。例えば、間隔、4、H、¥のビット構成は、16 進表示で、それぞれ 20、34、48、5C である。16 進表示で、ビット構成が 21~7E (及び表では省略している A1~DF) に対応する文字を図形文字という。図形文字は、表示(印刷)装置で、文字として表示(印字)できる。

(3) この表にない文字とそのビット構成が必要な場合は、問題中で与える。

行 列	02	03	04	05	06	07
0	間隔	0	@	P	,	р
1	!	1	Α	Q	а	q
2	"	2	В	R	b	r
3	#	3	С	S	С	s
4	\$	4	D	Т	d	t
5	0/0	5	E	U	е	u
6	&	6	F	V	f	V
7	•	7	G	W	g	W
8	(8	Н	Х	h	Х
9)	9	Ι	Y	i	У
10	*	••	J	Z	j	Z
11	+	••	K	[k	~
12	,	<	L	¥	1	
13	-	II	М]	m	}
14		^	N	^	n	2
15	/	?	0	_	0	

2. アセンブラ言語 CASL II の仕様

2.1 言語の仕様

- (1) CASLIIは、COMETIIのためのアセンブラ言語である。
- (2) プログラムは、命令行及び注釈行からなる。
- (3) 1命令は1命令行で記述し、次の行へ継続できない。
- (4) 命令行及び注釈行は、次に示す記述の形式で、行の1文字目から記述する。

行	の種類	記述の形式
命令行	オペランドあり	[ラベル] (空白) (命令コード) (空白) (オペランド) [(空白) [コメント]]
加力11	オペランドなし	[ラベル] (空白) (命令コード) [(空白) [(;) [コメント]]]
注釈行		[空白] {;} [コメント]

(注) [] 内の指定が省略できることを示す。

{ } 内の指定が必須であることを示す。

ラベル その命令の (先頭の語の) アドレスを他の命令やプログラムから参照するための名前である。長さは $1\sim 8$ 文字で、先頭の文字は英大文字でなければならない。 以降の文字は、英大文字又は数字のいずれでもよい。なお、予約語である $GR0\sim GR7$ は、使用できない。

空白 1 文字以上の間隔文字の列である。

命令コード 命令ごとに記述の形式が定義されている。 オペランド 命令ごとに記述の形式が定義されている。

コメント 覚え書きなどの任意の情報であり、処理系で許す任意の文字を書くことができる。

2.2 命令の種類

命令は、4 種類のアセンブラ命令(START, END, DS, DC), 4 種類のマクロ命令(IN, OUT, RPUSH, RPOP)及び機械語命令(COMETIIの命令)からなる。その仕様を次に示す。

命令の種類	ラベル	命 つ つ ード	オペランド	機能
アセンブラ命令	ラベル	START	[実行開始番地]	プログラムの先頭を定義 プログラムの実行開始番地を定義 他のプログラムで参照する入口名 を定義
) C > > + 1 1		END		プログラムの終わりを明示
	[ラベル]	DS	語数	領域を確保
	[ラベル]	DC	定数[,定数]…	定数を定義
	[ラベル]	IN	入力領域,入力文字長領域	入力装置から文字データを入力
	[ラベル]	OUT	出力領域,出力文字長領域	出力装置へ文字データを出力
マクロ命令	[ラベル]	RPUSH		GRの内容をスタックに格納
	[ラベル]	RPOP		スタックの内容を GR に格納
機械語命令	[ラベル]	(「1.2 命令」を参照)		

2.3 アセンブラ命令

アセンブラ命令は、アセンブラの制御などを行う。

(1) **| START** | 「実行開始番地]

START 命令は、プログラムの先頭を定義する。

実行開始番地は、そのプログラム内で定義されたラベルで指定する。指定がある場合はその番地から、省略した場合はSTART命令の次の命令から、実行を開始する。

また、この命令につけられたラベルは、他のプログラムから入口名として参照できる。

(2) END

END 命令は、プログラムの終わりを定義する。

(3) DS 語数

DS 命令は、指定した語数の領域を確保する。

語数は、10 進定数 (≥ 0) で指定する。語数を 0 とした場合、領域は確保しないが、 ラベルは有効である。

(4) DC 定数 [,定数] ···

DC 命令は、定数で指定したデータを(連続する)語に格納する。

定数には、10進定数、16進定数、文字定数、アドレス定数の4種類がある。

定数の種類	書き方	命 令 の 説 明
10 進定数	n	n で指定した 10 進数値を, 1 語の 2 進数データとして格納する。ただし, n が $-32768 \sim 32767$ の範囲にないときは, その下位 16 ビットを格納する。
16 進定数	#h	h は 4 けたの 16 進数(16 進数字は 0 ~ 9,A ~ F)とする。h で指定した
10 22 20		16 進数値を 1 語の 2 進数データとして格納する(0000 ≦ n ≦ FFFF)。
		文字列の文字数 (>0) 分の連続する領域を確保し、最初の文字は第1語の 下位8ビットに、2番目の文字は第2語の下位8ビットに、…と順次文字
文字定数	'文字列'	データとして格納する。各語の上位8ビットには0のビットが入る。
		文字列には,間隔及び任意の図形文字を書くことができる。ただし,アポ
		ストロフィ (') は2個続けて書く。
アドレス定数	ラベル	ラベルに対応するアドレスを1語の2進数データとして格納する。

2.4 マクロ命令

マクロ命令は、あらかじめ定義された命令群とオペランドの情報によって、目的の機能を果たす命令群を生成する(語数は不定)。

(1) IN 入力領域,入力文字長領域

IN 命令は、あらかじめ割り当てた入力装置から、1 レコードの文字データを読み込む。 入力領域は、256 語長の作業域のラベルであり、この領域の先頭から、1 文字を 1 語に対応させて順次入力される。レコードの区切り符号(キーボード入力の復帰符号など)は、格納しない。格納の形式は、DC 命令の文字定数と同じである。入力データが 256 文字に満たない場合、入力領域の残りの部分は実行前のデータを保持する。入力データが 256 文字を超える場合、以降の文字は無視される。

入力文字長領域は、1 語長の領域のラベルであり、入力された文字の長さ (≥ 0) が 2 進数で格納される。ファイルの終わり (end of file) を検出した場合は、-1 が格納される

IN 命令を実行すると、GR の内容は保存されるが、FR の内容は不定となる。

(2) OUT 出力領域,出力文字長領域

OUT 命令は、あらかじめ割り当てた出力装置に、文字データを、1 レコードとして書き出す。

出力領域は、出力しようとするデータが 1 文字 1 語で格納されている領域のラベルである。格納の形式は、DC 命令の文字定数と同じであるが、上位 8 ビットは、OS が無視するので 0 でなくてもよい。

出力文字長領域は、1 語長の領域のラベルであり、出力しようとする文字の長さ (≥ 0) を 2 進数で格納しておく。

OUT 命令を実行すると、GR の内容は保存されるが、FR の内容は不定となる。

(3) RPUSH

RPUSH 命令は, GR の内容を, GR1, GR2, …, GR7 の順序でスタックに格納する。

(4) RPOP

RPOP 命令は、スタックの内容を順次取り出し、GR7、GR6、…、GR1 の順序で GR に格納する。

2.5 機械語命令

機械語命令のオペランドは、次の形式で記述する。

r, r1, r2 GRは, 記号GR0~GR7で指定する。

 ${f x}$ 指標レジスタとして用いる ${f GR}$ は、記号 ${f GR1}\sim {f GR7}$ で指定する。

adr アドレスは、10進定数、16進定数、アドレス定数又はリテラルで指定する。

リテラルは、一つの 10 進定数、16 進定数又は文字定数の前に等号(=)を付けて記述する。CASLIIは、等号の後の定数をオペランドとする DC 命令を生成し、そのアドレスを adr の値とする。

2.6 その他

- (1) アセンブラによって生成される命令語や領域の相対位置は、アセンブラ言語での記述順序とする。ただし、リテラルから生成される DC 命令は、END 命令の直前にまとめて配置される。
- (2) 生成された命令語,領域は,主記憶上で連続した領域を占める。

3. プログラム実行の手引

3.1 OS

プログラムの実行に関して、次の取決めがある。

- (1) アセンブラは、未定義ラベル(オペランド欄に記述されたラベルのうち、そのプログラム内で定義されていないラベル)を、他のプログラムの入口名(START 命令のラベル)と解釈する。この場合、アセンブラはアドレスの決定を保留し、その決定を OS に任せる。OS は、実行に先立って他のプログラムの入口名との連係処理を行いアドレスを決定する(プログラムの連係)。
- (2) プログラムは、OS によって起動される。プログラムがロードされる主記憶の領域は不定とするが、プログラム中のラベルに対応するアドレス値は、OS によって実アドレスに補正されるものとする。
- (3) プログラムの起動時に、OS はプログラム用に十分な容量のスタック領域を確保し、その最後のアドレスに1を加算した値をSPに設定する。
- (4) OS は、CALL 命令でプログラムに制御を渡す。プログラムを終了し OS に制御を戻す ときは、RET 命令を使用する。
- (5) IN 命令に対応する入力装置, OUT 命令に対応する出力装置の割当ては, プログラム の実行に先立って利用者が行う。
- (6) OS は、入出力装置や媒体による入出力手続の違いを吸収し、システムでの標準の形式及び手続(異常処理を含む)で入出力を行う。したがって、IN、OUT命令では、入出力装置の違いを意識する必要はない。

3.2 未定義事項

プログラムの実行等に関し,この仕様で定義しない事項は,処理系によるものとする。

参考資料

参考資料は、COMET IIの理解を助けるため又は COMET IIの処理系作成者に対する便宜のための資料である。したがって、COMET II、CASL II の仕様に影響を与えるものではない。

1. 命令語の構成

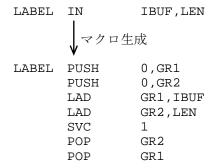
命令語の構成は定義しないが、次のような構成を想定する。ここで、OP の数値は 16 進表示で示す。

15			3 0	15 0	\leftarrow	ー ビッ	ト番号	
	第	1語		第2語	命令		命令語とアセ	ンブラとの対応
	P 副OP	r/r1	x/r2	adr	語長		機械語命令	意味
0	0	_	_	=	1	NOP		no operation
1	0				2	LD	r,adr,x	load
	1				2	ST	r,adr,x	store
	2				2	LAD	r,adr,x	load address
	4			ı	1	LD	r1,r2	load
2	0				2	ADDA	r,adr,x	add arithmetic
	1				2	SUBA	r,adr,x	subtract arithmetic
	2				2	ADDL	r,adr,x	add logical
	3				2	SUBL	r,adr,x	subtract logical
	4			_	1	ADDA	r1,r2	add arithmetic
	5			_	1	SUBA	r1,r2	subtract arithmetic
	6			_	1	ADDL	r1,r2	add logical
	7				1	SUBL	r1,r2	subtract logical
3	0				2	AND	r,adr,x	and
	1				2	OR	r,adr,x	or
	2				2	XOR	r,adr,x	exclusive or
	4			_	1	AND	r1,r2	and
	5			_	1	OR	r1,r2	or
	6			=	1	XOR	r1,r2	exclusive or
4	0				2	CPA	r,adr,x	compare arithmetic
	1				2	CPL	r,adr,x	compare logical
	4			=	1	CPA	r1,r2	compare arithmetic
	5			=	1	CPL	r1,r2	compare logical
5	0				2	SLA	r,adr,x	shift left arithmetic
	1				2	SRA	r,adr,x	shift right arithmetic
	2				2	SLL	r,adr,x	shift left logical
	3				2	SRL	r,adr,x	shift right logical
6	1	_			2	JMI	adr,x	jump on minus
	2	_			2	JNZ	adr,x	jump on non zero
	3	_			2	JZE	adr,x	jump on zero
	4	_			2	JUMP	adr,x	unconditional jump
	5	_			2	JPL	adr,x	jump on plus
	6	_			2	JOV	adr,x	jump on overflow
7	0	_			2	PUSH	adr,x	push
	1		_	_	1	POP	r	рор
8	0	_			2	CALL	adr,x	call subroutine
	1	_	_	=	1	RET	,	return from subroutine
9					_			
~						7	その他の命令	
E						`	e i teris eta ta	
F	0	_			2	SVC	adr,x	supervisor call
			<u> </u>		_			. 1

2. マクロ命令

マクロ命令が生成する命令群は定義しない(語数不定)が、次の例のような命令群を生成することを想定する。

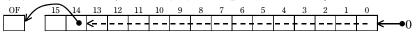
〔例〕 IN 命令



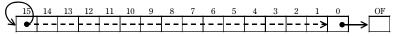
3. シフト演算命令におけるビットの動き

シフト演算命令において、例えば、1 ビットのシフトをしたときの動き及び OF の変化は、次のとおりである。

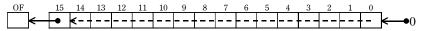
(1) 算術左シフトでは、ビット番号14の値が設定される。



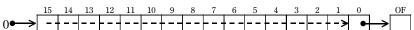
(2) 算術右シフトでは、ビット番号 0 の値が設定される。



(3) 論理左シフトでは、ビット番号15の値が設定される。



(4) 論理右シフトでは、ビット番号0の値が設定される。



4. プログラムの例

```
COUNT1
       START
       入力
               GR1:検索する語
;
       処理
               GR1 中の'1'のビットの個数を求める
;
       出力
               GR0:GR1 中の'1'のビットの個数
       PUSH
               0,GR1
       PUSH
               0,GR2
       SUBA
               GR2,GR2
                            ; Count = 0
                            ; 全部のビットが '0'?
               GR1,GR1
       AND
       JZE
               RETURN
                            ; 全部のビットが'0'なら終了
MORE
       LAD
               GR2,1,GR2
                            ; Count = Count + 1
                            ; 最下位の'1'のビット1個を
       LAD
               GR0,-1,GR1
                               '0'に変える
       AND
               GR1,GR0
                            ; '1'のビットが残っていれば繰返し
       JNZ
               MORE
                            ; GR0 = Count
RETURN
               GR0,GR2
       LD
       POP
               GR2
       POP
               GR1
       RET
                            ; 呼出しプログラムへ戻る
       END
```

別紙2 プログラム言語 Perl の用例・解説

Perl を使用した問題では、各問題文中に注記がない限り、次に示す用例に従って記述する。 なお、用例は、解答で使用する演算子、関数、予約語などを制限するものではない。

	用例
性類	解説

1. 注釈

#	#ここにコメントを書く
	行末までが注釈となる。

2. リテラル

2. リテラル	
スカラ	123
	10 進数 123 である。
	12.3
	10 進数 12.3 である。
	4E-5
	10 進数 4×10 ⁻⁵ である。
	0x9f
	16 進数 9F である。
	0147
	8 進数 147 である。
	0b010111
	2 進数 010111 である。
	<pre>\$var = "hello";</pre>
	<pre>print '\$var ', "\$var ", `echo world`;</pre>
	変数 var に文字列 "hello" を代入する。文字列のスカラ '\$var ', "\$var ",
	`echo world`を出力する。"\$var "は変数を展開し、`echo world`は
	コマンドの出力を展開するので、出力は"\$var hello world"となる。
	加御大学(14年) なもで
	制御文字(改行)である。
	\r 制御文字(復帰)である。
	\t
	制御文字(水平タブ)である。
リストリテラル	('a', 'b', 'c')
	リスト ('a', 'b', 'c') である。
	('a', 'b', 'c')[0]
	リスト ('a', 'b', 'c') の1番目の要素 'a' である。
	()
	空リストである。
	('a' => 'alpha', 'b' => 'bravo', 'c' => 'charlie')
	キーa, b, c に, それぞれ値 alpha, bravo, charlie を結び付けたハッ
	シュである。

ファイルハンドル	STDIN
	標準入力である。
	STDOUT
	標準出力である。
	STDERR
	標準エラー出力である。
	ARGV
	コマンドラインから指定されたファイル名のリストを順に読み込むためのフ
	ァイルハンドルである。

3. 変数

スカラ変数	\$var
	スカラ変数 var である。
配列変数	@ary
	配列変数 ary である。
配列要素	\$ary[6]
	配列変数 ary の 7 番目の要素である。
ハッシュ変数	%hash
	ハッシュ変数 hash である。
ハッシュ要素	\$hash{'a'}
	ハッシュ変数 hash の要素のうち、キー a に結び付けられた値である。
局所的な変数	{my \$var;}
	{} 内を有効範囲とする変数 var の宣言である。
\$_	<pre>\$_ = "abc";</pre>
	<pre>if (/b/) print "match";</pre>
	パターンマッチの演算子が省略されたとき, \$_ の文字列 "abc" が // 内の
	パターン b と一致するかどうかを判定し, "match" が出力される。
@ARGV	@ARGV
	コマンドライン引数のリストを格納する配列変数である。
<u>@</u>	e_
	サブルーチンに渡す引数のリストを格納する配列変数である。

4. 演算子

->	\$object->method1 オブジェクト object のメソッド method1 を呼び出す。
	Class->method2
	クラス Class のメソッド method2 を呼び出す。
++,	\$a++
	変数 a を評価した後に 1 を加算する。
	\$b
	変数 b から 1 を減算した後に評価する。
1,	!\$a
+ (単項),	変数 a の論理否定である。
- (単項)	+123
	正の数 123 である。
	-123
	負の数 123 である。

=~,	<pre>\$html_contents =~ //</pre>
!~	変数 html_contents の値に,文字列 " " が含まれているときに真を返
	す。
	<pre>\$html_contents !~ / /</pre>
	変数 html_contents の値に、文字列 "
	返す。
*,	314 * 34
, ,	314 と 34 の乗算である。
9	
	6 / 469 6 を 469 で割る除算である。
	34 % 6
	34 を 6 で割る剰余演算である。
+,	3.14 + 2.72
	3.14 と 2.72 の加算である。
•	220 — 8125
	220 から 8125 を引く減算である。
	"IPA"."JITEC"
	文字列"IPA"と"JITEC"の連結である。
<, >, <=, >=,	1 < 2
lt, gt, le, ge	数値1と2を比較し、演算子の左側が右側より小さいので真を返す。数値の
	関係演算子には、ほかに > 、 <= 、 >= がある。
	"b" lt "a"
	文字列"b"と"a"を比較し、演算子の左側が右側より小さくないので偽を
	返す。文字列の関係演算子には、ほかにgt、le、geがある。
==, !=, <=>,	1 <=> 2
eq, ne, cmp	数値1 と2 を比較し、演算子の左側が右側より大きければ1, 等しければ0,
	小さければ -1 を返すので、この場合は -1 を返す。数値の比較演算子に
	は, ほかに ==, != がある。
	"b" cmp "a"
	文字列 "b"と "a"を比較し、演算子の左側が右側より大きければ 1, 等し
	ければ 0, 小さければ -1 を返すので, この場合は 1 を返す。文字列の比較
	演算子には、ほかに eq、ne がある。
& &	\$x >= 0 && \$x < 10
	変数 x の値が 0 以上かつ 10 未満なら真を返す。
П	\$x < 0 \$x >= 10
••	@card = (1 52)
_	1 から 52 までの連続する整数を配列変数 card に代入する。
=, +=, -=,	\$a = 1
-, +-,, *=, /=, %=	\$d = 1 変数 a に 1 を代入する。
	\$a += 10
	変数 a の値に 10 を加算して a に代入する。 代入演算子には,ほかに -=, *=, /=, %= がある。
=>	
=>, ,	%hash = ('a' => 'alpha', 'b' => 'bravo', 'c' => 'charlie')
	a に alpha, b に bravo, c に charlie を結び付けたハッシュをハッシュ変
	数 hash に代入する。
m a ±	
not	not \$a 変数 a の論理否定である。

and	\$a < 0 and \$b == 0
	変数 a が 0 より小さいか,変数 b が 0 と等しいかという二つの関係式の論理 積である。
or,	\$a < 0 or \$b == 0
xor	変数 a が 0 より小さいか,変数 b が 0 と等しいかという二つの関係式の論理和である。
	\$a < 0 xor \$b == 0
	変数 a が 0 より小さいか,変数 b が 0 と等しいかという二つの関係式の排他的論理和である。

注 演算の優先順位は、上表の枠の順である。

5. 文

```
if
             if ($var == 1) {
                print "a";
             } elsif ($var == 2) {
                print "b";
             } else {
                print "c";
             変数 var の値が 1 なら "a" を、2 なら "b" を、それ以外なら "c" を出力す
while
             $i = 1;
             while ($i <= 10) {
               print $i++, "\n";
             変数iの値を1から1ずつ増やし,10回出力する。
for
             for ($i = 1; $i \le 10; $i++){
                print "$i\n";
             変数iの値を1から1ずつ増やし、10回出力する。
foreach
             foreach $i (1, 3, 5) {
               print "$i\n";
             変数 i にリストの各要素 1, 3, 5 を順に代入し, 3 回出力する。
next
             for ($i = 1; $i <= 10; $i++) {
                next if $i % 2;
                print "$i\n";
             変数 i が 2 で割り切れないとき、ループ本体の next 行より後を実行しない
             ので, 偶数を出力する。
```

6. 正規表現

\	/\.\^\\$\[\ \+*\?\{\(\)\/\/			
	次の1文字そのものを表す。".^\$[+*?{()/\"と一致する。			
•	/www.ipa.go.jp/			
	改行文字以外の任意の1文字と一致する。"wwwdipa,go@jp"と一致する。			
^	/^ab/			
	先頭が "ab" である文字列と一致する。"abc" と一致するが,"cab" とは一致しない。			

\$	/yz\$/ 末尾が "yz" である文字列と一致する。"xyz" と一致するが,"yza" とは一
	致しない。
+	/go+d/ 直前の 1 文字 o の 1 回以上の繰返しと一致する。"god" や "gooood" と一 致するが, "gd" とは一致しない。
*	/go*d/ 直前の 1 文字 o の 0 回以上の繰返しと一致する。"gd", "god" や "gooood" と一致する。
?	/colou?r/ 直前の 1 文字 u の 0 回又は 1 回の出現と一致する。"color"又は "colour"と一致する。
{m}, {m,n}	/co{2}1/ 直前の 1 文字 o の 2 回の繰返しと一致する。"cool" と一致するが,"col" や "coool" とは一致しない。
	/go $\{1,3\}$ d/ 直前の 1 文字 o の $1\sim3$ 回の繰返しと一致する。"god" や"good" と一致するが,"gd" や"gooood" とは一致しない。
()	/<(h.)>/ () 内の文字列と一致するパターンを部分パターンとしてまとめる。" <h1>" と一致した場合は"h1"が,"<hr/>"と一致した場合は"hr"が,まとめられる。</h1>
\1, \2,	/<()><([bp])>JITEC<\/\2><\/\1>/ 左から順に()内のパターンと一致した文字列が\1,\2,… に割り当てられる。" <h1>JITEC</h1> "と一致するが, " JITEC
[]	/ <h[12r]>/ [] 内で指定した文字 1, 2 又は r のどれか一つと一致する。"<h1>", "<hr/>" と一致するが,"<h3>" や "<hr/>" とは一致しない。</h3></h1></h[12r]>
	/[^0-9]/ [] 内で指定した 0 ~ 9 以外の 1 文字と一致する。"a"と一致するが,"3" とは一致しない。
	/<(a href img src)=/
	で区切られた "a href" 又は "img src" のどちらか一方と一致する。 "

7. サブルーチン

定義	<pre>sub greeting {</pre>		
	<pre>print "hello Perl\n";</pre>		
	}		
	"hello Perl"を出力するサブルーチン greeting を定義する。		
呼出し	subroutine (\$arg1, \$arg2);		
	サブルーチン subroutine を引数 arg1 と arg2 で呼び出す。() を省略して		
	"subroutine \$arg1, \$arg2;"とする表記もある。		
戻り	return -1;		
	サブルーチンから抜け出し,値 -1 を返す。		

8. モジュール

use	use CGI;
	モジュール CGI を 1 度だけ読み込み,利用可能にする。

9. メソッド呼出し

->	<pre>\$object->method1(arg1);</pre>
	演算子 -> を使って,オブジェクト object のメソッド method1 を引数
	arg1 で実行する。
	Class->method2(arg1, arg2);
	演算子 -> を使って,クラス Class のメソッド method2 を引数 arg1 及び
	arg2 で実行する。

10. 文字列操作関数

chomp	chomp @lines;		
	配列変数 lines の各要素の末尾にある改行文字を削除する。		
eval	eval \$exp_str;		
	変数 exp_str の内容を Perl プログラムとして解釈し実行する。		
length	<pre>length \$long_str;</pre>		
	変数 long_str に格納される文字列の文字数を返す。		

11. 配列・ハッシュ操作関数

keys	<pre>%hash = ('a' => 'alpha', 'b' => 'bravo', 'c' => 'charlie'); foreach \$key (keys %hash) { print "\$key\n";</pre>
	}
	ハッシュ変数 hash のキーのリストを取り出し,各キーを出力する。この場合は,"a","b","c"を順不同に出力する。
shift	<pre>\$next = shift @queue;</pre>
	配列変数 queue の先頭要素を取り除いて詰め、取り除いた値を変数 next に代入する。
sort	<pre>@pile = sort @jumble;</pre>
	配列変数 jumble の値を文字列の大小比較によって昇順に整列し,配列変数 pile に代入する。
	<pre>@pile = sort {\$b <=> \$a} @jumble;</pre>
	配列変数 jumble の値を数値の大小比較に従って降順に整列し、配列変数 pile に代入する。
split	<pre>@fields = split ',', \$csv;</pre>
	変数 csv の値をコンマで区切って分割したリストを配列変数 fields に代入する。

12. 検索・置換関数

m/…/ 又は	<pre>\$html_contents =~ //i;</pre>		
/…/	変数 html_contents の値が,文字列 " "又は ""を含んでいるかどうかを判定する。i は,大文字,小文字の区別をしないオプションであ		
	る。		
s/…/…/	<pre>\$html_contents =~ s/ /\n/gi;</pre>		
	変数 html_contents の中の文字列 " " <pre>cpp。" たみたまでに関係する。これ、 でしたすべての文字列も関係する。</pre>		
	" "を改行文字に置換する。g は、一致したすべての文字列を置換する オプションである。		

\$`, \$&, \$',	'The date is $1970-01-23.' = ([0-9]{4})-([0-9]{2})-([0-9]{2})$				
\$1, \$2,	9]{2})/;				
	<pre>print "String before the date: \$`\n";</pre>				
	<pre>print "Date: \$&\n";</pre>				
	<pre>print "String after the date: \$'\n";</pre>				
	print "Year: \$1\n", "Month: \$2\n", "Day: \$3\n"; 文字列 "The date is 1970-01-23." に対して, 一致した部分の前の文字				
	列,一致した文字列,一致した部分の後ろの文字列をそれぞれ変数 `, &, '				
	に代入する。また、()で囲まれた部分パターンと一致した文字列を、1番目				
	から順に変数 1, 2, 3 に代入する。これらを利用し, "String before the				
	date: The date is ", "Date: 1970-01-23", "String after the date: .",				
	"Year: 1970", "Month: 01", "Day: 23" の 6 行を出力する。				

13. 入出力操作関数

open	open LOG, '>>cgi.log'; ファイル cgi.log を追記モードで開き, ファイルハンドル LOG に対応付ける。	
<filehandle></filehandle>	\$line = <user_file>; ファイルハンドル USER_FILE から 1 行を読み込んで変数 line に代入する。</user_file>	
<>	<pre>@records = <>; 標準入力 (コマンドライン引数があるときは、コマンドライン引数で指定されたファイル) から順にデータを読み込み、すべての行を配列変数 records に代入する。</pre>	
print	print LOG "sync.\n"; ファイルハンドル LOG に対応するファイルに文字列を出力する。	
close	close LOG; ファイルハンドル LOG に対応するファイルを閉じる。	

14. システムインタフェース

die	open(FILE, 'a_file') or die 'cannot open a_file';				
	ファイル a_file を開く。開くのに失敗したとき,"cannot open a_file"と				
	いうメッセージを出力して実行を終了する。				
system	system 'a.out';				
	コマンド a.out を実行し、コマンドが終了するまで待機する。				

|別紙3| 表計算ソフトの機能・用語(IT パスポート試験用)

表計算ソフトの機能,用語などは,原則として次による。

なお,ワークシートの保存,読出し,印刷,罫線作成やグラフ作成など,ここで示す以外の機能などを使用するときには,問題文中に示す。

1. ワークシート

- (1) 列と行とで構成される升目の作業領域をワークシートという。ワークシートの大きさは 256 列, 10,000 行とする。
- (2) ワークシートの列と行のそれぞれの位置は、列番号と行番号で表す。列番号は、最左端列の列番号をAとし、A、B、…、Z、AA、AB、…、AZ、BA、BB、…、BZ、…、IU、IVと表す。
 行番号は、最上端行の行番号を1とし、1、2、…、10000と表す。
- (3) 複数のワークシートを利用することができる。このとき,各ワークシートには一意のワークシート名を付けて,他のワークシートと区別する。

2. セルとセル範囲

(1) ワークシートを構成する各升をセルという。その位置は列番号と行番号で表し、それをセル 番地という。

[例]列A行1にあるセルのセル番地は,A1と表す。

(2) ワークシート内のある長方形の領域に含まれる全てのセルの集まりを扱う場合,長方形の左上端と右下端のセル番地及び"~"を用いて,"左上端のセル番地~右下端のセル番地"と表す。これを,セル範囲という。

[例] 左上端のセル番地が A1で,右下端のセル番地が B3のセル範囲は,A1~B3と表す。

(3) 他のワークシートのセル番地又はセル範囲を指定する場合には,ワークシート名と"!"を用い,それぞれ"ワークシート名!セル番地"又は"ワークシート名!セル 範囲"と表す。
[例]ワークシート"シート1"のセル範囲 B5 ~ G10 を,別のワークシートから指定する場合には,シート1!B5~G10 と表す。

3. 値と式

- (1) セルは値をもち、その値はセル番地によって参照できる。値には、数値、文字列、論理値及び空値がある。
- (2) 文字列は一重引用符"'"で囲って表す。[例]文字列"A","BC"は、それぞれ 'A', 'BC'と表す。
- (3) 論理値の真を true , 偽を false と表す。
- (4) 空値を null と表し,空値をもつセルを空白セルという。セルの初期状態は,空白セルとする。
- (5) セルには,式を入力することができる。セルは,式を評価した結果の値をもつ。

- (6) 式は,定数,セル番地,演算子,括弧及び関数から構成される。定数は,数値,文字列,論理値又は空値を表す表記とする。式中のセル番地は,その番地のセルの値を参照する。
- (7) 式には,算術式,文字式及び論理式がある。評価の結果が数値となる式を算術式,文字列となる式を文字式,論理値となる式を論理式という。
- (8) セルに式を入力すると、式は直ちに評価される。式が参照するセルの値が変化したときには、直ちに、適切に再評価される。

4. 演算子

- (1) 単項演算子は,正符号"+"及び負符号"-"とする。
- (2) 算術演算子は,加算"+",減算"-",乗算"*",除算"/"及びべき乗"^"とする。
- (3) 比較演算子は,より大きい">",より小さい"<",以上"",以下"",等しい"=" 及び等しくない""とする。
- (4) 括弧は丸括弧"("及び")"を使う。
- (5) 式中に複数の演算及び括弧があるときの計算の順序は,次表の優先順位に従う。

演算の種類	演算子	優先順位
括弧	()	高
べき乗演算	٨	•
単項演算	+ , -	
乗除演算	* , /	
加減演算	+ , -	▼
比較演算	> , < , , , = ,	低

5. セルの複写

- (1) セルの値又は式を,他のセルに複写することができる。
- (2) セルを複写する場合で,複写元のセル中にセル番地を含む式が入力されているとき,複写元と複写先のセル番地の差を維持するように,式中のセル番地を変化させるセルの参照方法を相対参照という。この場合,複写先のセルとの列番号の差及び行番号の差を,複写元のセルに入力された式中の各セル番地に加算した式が,複写先のセルに入る。
 - [例] セル A6 に式 A1 + 5 が入力されているとき,このセルをセル B8 に複写すると,セル B8 には式 B3 + 5 が入る。
- (3) セルを複写する場合で,複写元のセル中にセル番地を含む式が入力されているとき,そのセル番地の列番号と行番号の両方又は片方を変化させないセルの参照方法を絶対参照という。絶対参照を適用する列番号と行番号の両方又は片方の直前には"\$"を付ける。
 - [例] セルB1 に式 \$A\$1 + \$A2 + A\$5 が入力されているとき,このセルをセル C4 に複写すると,セル C4 には式 \$A\$1 + \$A5 + B\$5 が入る。

(4) セルを複写する場合で, 複写元のセル中に, 他のワークシートを参照する式が入力されているとき, その参照するワークシートのワークシート名は複写先でも変わらない。

[例] ワークシート "シート2" のセル A6 に式 シート1!A1 が入力されているとき , このセル E8 に複写すると , セル E8 には式 シート1!E8 が入る。

6. 関数

式には次の表で定義する関数を利用することができる。

書式	解説
合計 (セル範囲1)	セル範囲に含まれる数値の合計を返す。 [例]合計(A1 ~ B5)は, セル範囲 A1~B5 に含まれる数値の合計を返す。
平均 (セル範囲1)	セル範囲に含まれる数値の平均を返す。
標本標準偏差 (セ ル 範囲 ¹⁾)	セル範囲に含まれる数値を標本として計算した標準偏差を返す。
母標準偏差 (セル 範囲 ¹⁾)	セル範囲に含まれる数値を母集団として計算した標準偏差を返す。
最大 (セル範囲1)	セル範囲に含まれる数値の最大値を返す。
最小 (セル範囲1)	セル範囲に含まれる数値の最小値を返す。
IF(論理式,式1,式2)	論理式の値が true のとき式 1 の値を , false のとき式 2 の値を返す。 [例] IF(B3 > A4,' 北海道',C4) は , セル B3 の値がセル A4 の値より大きいとき文字列"北海道"を , それ以外のときセル C4 の値を返す。
個数 (セル範囲)	セル範囲に含まれるセルのうち、空白セルでないセルの個数を返す。
条件付個数 (セル 範囲,検索条件の 記述)	セル範囲に含まれるセルのうち , 検索条件の記述で指定された条件を満たす セルの個数を返す。検索条件の記述は比較演算子と式の組で記述し , セル範 囲に含まれる各セルと式の値を , 指定した比較演算子によって評価する。 [例1]条件付個数 (H5 ~ L9, > A1) は , セル範囲 H5 ~ L9 のセルのうち , セル A1 の値より大きな値をもつセルの個数を返す。 [例2]条件付個数 (H5 ~ L9, = 'A4') は , セル範囲 H5 ~ L9 のセルのうち , 文字列 "A4" をもつセルの個数を返す。
整数部(算術式)	算術式の値以下で最大の整数を返す。 [例1]整数部(3.9) は,3を返す。 [例2]整数部(-3.9) は,-4を返す。
剰余(算術式1,算 術式2)	算術式 1 の値を被除数 , 算術式 2 の値を除数として除算を行ったときの剰余を返す。関数 "剰余" と "整数部" は , 剰余 $(x,y) = x - y$ * 整数部 (x/y) という関係を満たす。 [例 1] 剰余 $(10,3)$ は , 1 を返す。 [例 2] 剰余 $(-10,3)$ は , 2 を返す。
平方根(算術式)	算術式の値の非負の平方根を返す。算術式の値は,非負の数値でなければならない。
論理積(論理式1, 論理式2,) ²⁾	論理式1,論理式2,の値が全て true のとき, true を返す。それ以外のとき false を返す。
論理和(論理式1, 論理式2,) ²⁾	論理式1,論理式2,の値のうち,少なくとも一つが true のとき, true を返す。それ以外のとき false を返す。
否定(論理式)	論理式の値が true のとき false を,false のとき true を返す。

切上げ(算術式,桁 位置) 四捨五入(算術式,	算術式の値を指定した桁位置で,関数"切上げ"は切り上げた値を,関数"四捨五入"は四捨五入した値を,関数"切捨て"は切り捨てた値を返す。ここで,桁位置は小数第1位の桁を0とし,右方向を正として数えたときの位置と
桁位置)	する。 [例1] 切上げ(- 314.159,2) は , - 314.16 を返す。
切捨て(算術式,桁 位置)	[例1] 切上げ(-314.139,2) は,-314.10を返す。 [例2] 切上げ(314.159,-2) は,400を返す。 [例3] 切上げ(314.159,0) は,315を返す。
結合(式1,式2,)2	[19] 編日(北海道 , 九州 ,123,430)は,又子列 北海道九州123430 を返す。
順位(算術式,セル	セル範囲の中での算術式の値の順位を , 順序の指定が 0 の場合は昇順で , 1 の
範囲 ¹⁾ ,順序の指	場合は降順で数えて、その順位を返す。ここで、セル範囲の中に同じ値がある。
定) 乱数()	場合,それらを同順とし,次の順位は同順の個数だけ加算した順位とする。
表引き(セル範囲、	○ 以上 1 不過の 1 ほれ奴(美奴直) を返す。 セル範囲の左上端から行と列をそれぞれ 1 , 2 , と数え , セル範囲に含まれ
行の位置、列の位	さんれるのなどは、これでは、これでは、これが、これが、これが、これが、 る行の位置と列の位置で指定した場所にあるセルの値を返す。
置)	[例]表引き(A3 ~ H11,2,5) は, セル E4 の値を返す。
垂直照合(式,セル 範囲,列の位置,検 索の指定)	セル範囲の左端列を上から下に走査し、検索の指定によって指定される条件を満たすセルが現れる最初の行を探す。その行に対して、セル範囲の左端列から列を1,2,と数え、セル範囲に含まれる列の位置で指定した列にあるセルの値を返す。 ・検索の指定が0の場合の条件:式の値と一致する値を検索する。・検索の指定が1の場合の条件:式の値以下の最大値を検索する。このとき、左端列は上から順に昇順に整列されている必要がある。 [例]垂直照合(15,A2 ~ E10,5,0) は、セル範囲の左端列をセル A2, A3,, A10 と探す。このとき、セル A6で15を最初に見つけたとすると、左端列 A から数えて5列目の列 E 中で、セル A6 と同じ行にあるセル E6 の値を返す。
水平照合(式,セル 範囲,行の位置,検 索の指定)	セル範囲の上端行を左から右に走査し、検索の指定によって指定される条件を満たすセルが現れる最初の列を探す。その列に対して、セル範囲の上端行から行を1,2,と数え、セル範囲に含まれる行の位置で指定した行にあるセルの値を返す。 ・検索の指定が0の場合の条件:式の値と一致する値を検索する。・検索の指定が1の場合の条件:式の値以下の最大値を検索する。このとき、上端行は左から順に昇順に整列されている必要がある。 [例]水平照合(15,A2 ~ G6,5,1)は、セル範囲の上端行をセル A2,B2,,G2と探す。このとき、15以下の最大値をセル D2で最初に見つけたとすると、上端行2から数えて5行目の行6中で、セル D2 と同じ列にあるセル D6 の値を返す。

- $注^{1)}$ 引数として渡したセル範囲の中で,数値以外の値は処理の対象としない。
 - 2) 引数として渡すことができる式の個数は,1以上である。

|別紙4| 表計算ソフトの機能・用語(基本情報技術者試験用)

表計算ソフトの機能,用語などは,原則として次による。

なお,ワークシートの保存,読出し,印刷,罫線作成やグラフ作成など,ここで示す以外の機能などを使用するときには,問題文中に示す。

1. ワークシート

- (1) 列と行とで構成される升目の作業領域をワークシートという。ワークシートの大きさは 256 列, 10,000 行とする。
- (2) ワークシートの列と行のそれぞれの位置は、列番号と行番号で表す。列番号は、最左端列の列番号をAとし、A、B、…、Z、AA、AB、…、AZ、BA、BB、…、BZ、…、IU、IVと表す。
 行番号は、最上端行の行番号を1とし、1、2、…、10000と表す。
- (3) 複数のワークシートを利用することができる。このとき,各ワークシートには一意のワークシート名を付けて,他のワークシートと区別する。

2. セルとセル範囲

(1) ワークシートを構成する各升をセルという。その位置は列番号と行番号で表し、それをセル 番地という。

[例]列A行1にあるセルのセル番地は,A1と表す。

(2) ワークシート内のある長方形の領域に含まれる全てのセルの集まりを扱う場合,長方形の左上端と右下端のセル番地及び"~"を用いて,"左上端のセル番地~右下端のセル番地"と表す。これを,セル範囲という。

[例] 左上端のセル番地が A1で,右下端のセル番地が B3のセル範囲は, A1~B3と表す。

(3) 他のワークシートのセル番地又はセル範囲を指定する場合には,ワークシート名と"!"を用い,それぞれ"ワークシート名!セル番地"又は"ワークシート名!セル 範囲"と表す。
[例]ワークシート"シート1"のセル範囲 B5 ~ G10 を,別のワークシートから指定する場合には,シート1!B5~G10 と表す。

3. 値と式

- (1) セルは値をもち、その値はセル番地によって参照できる。値には、数値、文字列、論理値及び空値がある。
- (2) 文字列は一重引用符"'"で囲って表す。[例]文字列"A","BC"は、それぞれ 'A', 'BC'と表す。
- (3) 論理値の真を true , 偽を false と表す。
- (4) 空値を null と表し,空値をもつセルを空白セルという。セルの初期状態は,空白セルとする。
- (5) セルには,式を入力することができる。セルは,式を評価した結果の値をもつ。

- (6) 式は,定数,セル番地,演算子,括弧及び関数から構成される。定数は,数値,文字列,論理値又は空値を表す表記とする。式中のセル番地は,その番地のセルの値を参照する。
- (7) 式には,算術式,文字式及び論理式がある。評価の結果が数値となる式を算術式,文字列となる式を文字式,論理値となる式を論理式という。
- (8) セルに式を入力すると、式は直ちに評価される。式が参照するセルの値が変化したときには、直ちに、適切に再評価される。

4. 演算子

- (1) 単項演算子は,正符号"+"及び負符号"-"とする。
- (2) 算術演算子は,加算"+",減算"-",乗算"*",除算"/"及びべき乗"^"とする。
- (3) 比較演算子は,より大きい">",より小さい"<",以上"",以下"",等しい"=" 及び等しくない""とする。
- (4) 括弧は丸括弧"("及び")"を使う。
- (5) 式中に複数の演算及び括弧があるときの計算の順序は,次表の優先順位に従う。

演算の種類	演算子	優先順位
括弧	()	高
べき乗演算	٨	A
単項演算	+ , -	
乗除演算	* , /	
加減演算	+ , -	\ \
比較演算	> , < , , , = ,	低

5. セルの複写

- (1) セルの値又は式を,他のセルに複写することができる。
- (2) セルを複写する場合で,複写元のセル中にセル番地を含む式が入力されているとき,複写元と複写先のセル番地の差を維持するように,式中のセル番地を変化させるセルの参照方法を相対参照という。この場合,複写先のセルとの列番号の差及び行番号の差を,複写元のセルに入力された式中の各セル番地に加算した式が,複写先のセルに入る。
 - [例] セル A6 に式 A1 + 5 が入力されているとき,このセルをセル B8 に複写すると,セル B8 には式 B3 + 5 が入る。
- (3) セルを複写する場合で,複写元のセル中にセル番地を含む式が入力されているとき,そのセル番地の列番号と行番号の両方又は片方を変化させないセルの参照方法を絶対参照という。絶対参照を適用する列番号と行番号の両方又は片方の直前には"\$"を付ける。
 - [例] セル B1 に式 \$A\$1 + \$A2 + A\$5 が入力されているとき,このセルをセル C4 に複写すると,セル C4 には式 \$A\$1 + \$A5 + B\$5 が入る。

(4) セルを複写する場合で, 複写元のセル中に, 他のワークシートを参照する式が入力されているとき, その参照するワークシートのワークシート名は複写先でも変わらない。

[例] ワークシート "シート2" のセル A6 に式 シート1!A1 が入力されているとき , このセル E8 に複写すると , セル E8 には式 シート1!E8 が入る。

6. 関数

式には次の表で定義する関数を利用することができる。

書式	解説
	セル範囲に含まれる数値の合計を返す。
合計 (セル範囲 ¹⁾)	[例]合計(A1 ~ B5)は, セル範囲 A1~B5 に含まれる数値の合計を返す。
平均 (セル範囲1)	セル範囲に含まれる数値の平均を返す。
標本標準偏差 (セ ル 範囲 ¹⁾)	セル範囲に含まれる数値を標本として計算した標準偏差を返す。
母標準偏差 (セル 範囲 ¹⁾)	セル範囲に含まれる数値を母集団として計算した標準偏差を返す。
最大 (セル範囲1)	セル範囲に含まれる数値の最大値を返す。
最小 (セル範囲1)	セル範囲に含まれる数値の最小値を返す。
IF(論理式,式1,式2)	論理式の値が true のとき式 1 の値を , false のとき式 2 の値を返す。 [例] IF(B3 > A4,' 北海道',C4) は , セル B3 の値がセル A4 の値より大きいとき文字列"北海道"を , それ以外のときセル C4 の値を返す。
個数 (セル範囲)	セル範囲に含まれるセルのうち、空白セルでないセルの個数を返す。
条件付個数 (セル 範囲,検索条件の 記述)	セル範囲に含まれるセルのうち,検索条件の記述で指定された条件を満たすセルの個数を返す。検索条件の記述は比較演算子と式の組で記述し,セル範囲に含まれる各セルと式の値を,指定した比較演算子によって評価する。 [例1]条件付個数(H5 ~ L9, > A1)は,セル範囲 H5 ~ L9のセルのうち,セル A1の値より大きな値をもつセルの個数を返す。 [例2]条件付個数(H5 ~ L9, = 'A4')は,セル範囲 H5 ~ L9のセルのうち,文字列 "A4"をもつセルの個数を返す。
整数部(算術式)	算術式の値以下で最大の整数を返す。 [例1]整数部(3.9)は,3を返す。 [例2]整数部(-3.9)は,-4を返す。
剰余(算術式1,算 術式2)	算術式 1 の値を被除数 , 算術式 2 の値を除数として除算を行ったときの剰余を返す。関数 "剰余" と "整数部" は , 剰余 (x,y) = x - y * 整数部 $(x$ / y) という関係を満たす。 [例 1] 剰余 $(10,3)$ は , 1 を返す。 [例 2] 剰余 $(-10,3)$ は , 2 を返す。
平方根(算術式)	算術式の値の非負の平方根を返す。算術式の値は,非負の数値でなければならない。
論理積(論理式1, 論理式2,) ²⁾	論理式1,論理式2,の値が全て true のとき, true を返す。それ以外のとき false を返す。
論理和(論理式1, 論理式2,) ²⁾	論理式1,論理式2,の値のうち,少なくとも一つが true のとき, true を返す。それ以外のとき false を返す。
否定(論理式)	論理式の値が true のとき false を , false のとき true を返す。

切上げ(算術式,桁位置)	算術式の値を指定した桁位置で,関数"切上げ"は切り上げた値を,関数"四 捨五入"は四捨五入した値を,関数"切捨て"は切り捨てた値を返す。ここで,桁位置は小数第1位の桁を0とし,右方向を正として数えたときの位置と
四捨五入(算術式, 桁位置)	する。
切捨て(算術式,桁 位置)	[例1]切上げ(-314.159,2)は,-314.16を返す。 [例2]切上げ(314.159,-2)は,400を返す。
	[例3]切上げ(314.159,0) は,315を返す。
結合(式1,式2,)2	式1,式2,…のそれぞれの値を文字列として扱い,それらを引数の順につないでできる一つの文字列を返す。 [例]結合('北海道','九州',123,456)は,文字列"北海道九州123456"を返す。
順位(算術式,セル	セル範囲の中での算術式の値の順位を , 順序の指定が 0 の場合は昇順で , 1 の
範囲1),順序の指	場合は降順で数えて、その順位を返す。ここで、セル範囲の中に同じ値がある
定)	場合、それらを同順とし、次の順位は同順の個数だけ加算した順位とする。
乱数()	0 以上 1 未満の一様乱数 (実数値)を返す。
表引き(セル範囲)	セル範囲の左上端から行と列をそれぞれ1,2,と数え,セル範囲に含まれ
行の位置、列の位	
	る行の位置と列の位置で指定した場所にあるセルの値を返す。
置)	[例]表引き(A3 ~ H11,2,5) は,セルE4の値を返す。
	セル範囲の左端列を上から下に走査し、検索の指定によって指定される条件
	を満たすセルが現れる最初の行を探す。その行に対して,セル範囲の左端列
	から列を1,2,と数え,セル範囲に含まれる列の位置で指定した列にある
	セルの値を返す。
垂直照合(式,セル	・検索の指定が0の場合の条件:式の値と一致する値を検索する。
範囲,列の位置,検	・検索の指定が1の場合の条件:式の値以下の最大値を検索する。このとき ,
索の指定)	左端列は上から順に昇順に整列されている必要がある。
	[例] 垂直照合 (15 , A2 ~ E10 , 5 , 0) は , セル範囲の左端列をセル A2 , A3 ,
	, A10 と探す。このとき,セル A6 で 15 を最初に見つけたとすると,
	左端列 A から数えて 5 列目の列 E 中で , セル A6 と同じ行にあるセル E6
	の値を返す。
	セル範囲の上端行を左から右に走査し,検索の指定によって指定される条件
	を満たすセルが現れる最初の列を探す。その列に対して,セル範囲の上端行
	から行を 1,2, と数え,セル範囲に含まれる行の位置で指定した行にある
	セルの値を返す。
水平照合(式,セル	・検索の指定が0の場合の条件:式の値と一致する値を検索する。
範囲,行の位置,検	・検索の指定が1の場合の条件:式の値以下の最大値を検索する。このとき、
索の指定)	上端行は左から順に昇順に整列されている必要がある。
,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	[例] 水平照合 (15, A2 ~ G6, 5, 1) は, セル範囲の上端行をセル A2, B2,
	, G2 と探す。このとき, 15 以下の最大値をセル D2 で最初に見つけた
	とすると,上端行2から数えて5行目の行6中で,セルD2と同じ列にあ
	るセル D6 の値を返す。
	1 行又は1列を対象とする同じ大きさの検索のセル範囲と抽出のセル範囲に対
	して、検索のセル範囲を左端又は上端から走査し、式の値と一致する最初の
照合検索(式,検索	セルを探す。見つかったセルの検索のセル範囲の中での位置と,抽出のセル
のセル範囲、抽出	範囲の中での位置が同じセルの値を返す。
のセル範囲)	戦団の中での位置が向りとかの値を返す。 [例] 照合検索(15,A1 ~ A8,C6 ~ C13) は, セル範囲 A1 ~ A8 をセル A1,
V € / V ∓6/41 /	A2 , と探す。このとき , セル A5 で 15 を最初に見つけたとすると ,
	セル範囲 C6 ~ C13 の上端から数えて 5 番目のセル C10 の値を返す。
	ビル乳四 いっしい の工物かつ致んしり笛目のヒルしいの他を返り。

1行又は1列を対象とするセル範囲に対して,セル範囲の左端又は上端から走査し,検索の指定によって指定される条件を満たす最初のセルを探す。見つかったセルの位置を,セル範囲の左端又は上端から1,2,...と数えた値とし,その値を返す。

・検索の指定が0の場合の条件:式の値と一致する値を検索する。

照合一致(式,セル 範囲,検索の指定)

- ・検索の指定が1の場合の条件:式の値以下の最大値を検索する。このとき, セル範囲は左端又は上端から順に昇順に整列されている必要がある。
- ・検索の指定が -1 の場合の条件:式の値以上の最小値を検索する。このとき,セル範囲は左端又は上端から順に降順に整列されている必要がある。
- [例] 照合一致 $(15, B2 \sim B12, -1)$ は,セル範囲 $B2 \sim B12$ をセル B2, B3, ... と探す。このとき,15 以上の最小値をセルB9 で最初に見つけたとすると,セル B2 から数えた値 8 を返す。

行数及び列数が共に同じ検索のセル範囲と合計のセル範囲に対して,検索と合計を行う。検索のセル範囲に含まれるセルのうち,検索条件の記述で指定される条件を満たすセルを全て探す。検索条件の記述を満たした各セルについての左上端からの位置と,合計のセル範囲中で同じ位置にある各セルの値を合計して返す。

条件付合計(検索のセル範囲,検索条件の記述,合計のセル範囲¹⁾)

検索条件の記述は比較演算子と式の組で記述し,検索のセル範囲に含まれる 各セルと式の値を,指定した比較演算子によって評価する。

- [例1]条件付合計 (A1 ~ B8, > E1, C2 ~ D9) は,検索のセル範囲である A1 ~ B8 のうち,セル E1 の値より大きな値をもつ全てのセルを探す。このとき,セル A2, B4, B7 が見つかったとすると,合計のセル範囲である C2 ~ D9 の左上端からの位置が同じであるセル C3, D5, D8 の値を合計して返す。
- [例2] 条件付合計 (A1 \sim B8 , = 160 , C2 \sim D9) は , 検索のセル範囲である A1 \sim B8 のうち , 160 と一致する値をもつ全てのセルを探す。このとき , セル A2 , B4 , B7 が見つかったとすると , 合計のセル範囲である C2 \sim D9 の左上端からの位置が同じであるセル C3 , D5 , D8 の値を合計して返す。
- 注1) 引数として渡したセル範囲の中で,数値以外の値は処理の対象としない。
 - 2) 引数として渡すことができる式の個数は,1以上である。

7. マクロ

(1) ワークシートとマクロ

ワークシートには複数のマクロを格納することができる。

マクロは一意のマクロ名を付けて宣言する。マクロの実行は,表計算ソフトのマクロの実行機能を使って行う。

[例] マクロ: Pro

例は,マクロ Pro の宣言である。

(2) 変数とセル変数

変数の型には,数値型,文字列型及び論理型があり,変数は宣言することで使用できる。変数名にセル番地を使用することはできない。

[例] 数值型:row,col

例は,数値型の変数 row, colの宣言である。

セルを変数として使用でき,これをセル変数という。セル変数は,宣言せずに使用できる。

セル変数の表現方法には,絶対表現と相対表現とがある。

セル変数の絶対表現は,セル番地で表す。

セル変数の相対表現は,次の書式で表す。

書式	解 説
	セル変数で指定したセルを基準のセルとする。そのセルの行番号と列番号の 位置を 0 とし,下又は右方向を正として数え,行の位置と列の位置で指定した 数と一致する場所にあるセルを表す変数である。

[例1]相対(B5,2,3)は,セルE7を表す変数である。

[例2]相対(B5, -2, -1)は,セルA3を表す変数である。

(3) 配列

数値型,文字列型又は論理型の配列は宣言することで使用できる。添字を"["及び"]"で囲み,添字が複数ある場合はコンマで区切る。添字は0から始まる。

なお,数値型及び文字列型の変数及び配列の要素には,空値を格納することができる。

[例] 文字列型:table[100,200]

例は, 100 x 200 個 の文字列型の要素をもつ 2 次元配列 table の宣言である。

(4) 宣言,注釈及び処理

宣言,注釈及び処理の記述は,"共通に使用される擬似言語の記述形式"に従う。

処理の記述中に式又は関数を使用する場合,その記述中に変数,セル変数又は配列の要素が 使用できる。

[例] 数值型:row

row:0,row<5,1

・相対(B5,row,0) 順位(相対(C5,row,0),G5~G9,0)

例は,セル C5,C6,…,C9 の各値に対して, セル範囲 G5 ~ G9 の中での順位を調べ,その順位をセル B5,B6,…,B9 に順に代入する。

Ver 2.0: 平成 23 年 7 月 11 日

■試験で使用する情報技術に関する用語・プログラム言語など■



〒113-8663 東京都文京区本駒込 2-28-8

文京グリーンコートセンターオフィス 15 階 TEL 03-5978-7600 (代表) FAX 03-5978-7610

